

事務事業マネージメントシート

作成日 平成31年 05月 14日

事務事業名	公共下水道建設事業（汚水）			担当	建設部 下水道課 工務係							
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			増補版施策名							
施策名	2	下水道事業の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業							
関連個別計画												
法令根拠	水質汚濁防止法・下水道法					事業期間						
予算科目	9. 公共下水道事業特別会計 ■ 費	1. 公共下水道	3 建設費	1 建設費	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（昭和47年度～令和8年度）							
事業概要	本市の公共下水道は、生活環境の改善、併せて公共用水域の水質保全を目的としている。汚水整備については、昭和48年1月に事業認可を得て事業に着手し、全体計画区域1,653.8ha、計画人口44,550人で、昭和58年3月に一部地域(130ha)の供用を開始して以来、順次処理区域の拡大を図っている。平成30年度未現在の整備状況は1,252.0haが整備され整備率は75.7%となっている。											

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 30年度実績 汚水管渠工事(L=1,891.5m) * 繰越(L=483.7m)・亀山北地区、長田・柳林地区 * 現年(L=1,407.8m)・亀山北地区、中郷・萩田地区、長田・柳林地区 、西高間木地区・下水道ストックマネジメント全体計画策定	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
31年度計画 汚水管渠工事(L=2,552.8m) * 繰越(L=122.8m)・亀山北地区 * 現年(L=2,430.0m)・亀山北地区、中郷・萩田地区、長田・柳林地区 、西高間木地区・下水道ストックマネジメント実施計画策定	ア 整備面積（単年度）	ha	10.5	7.3	9.9	6.5	8.9
	イ 管渠延長（単年度）	km	2.4	2.3	2.7	1.9	2.6
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等 計画面積（全体計画）	ウ						
	エ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 整備面積の拡大	オ						
	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 快適で衛生的な生活環境づくりと公共用水域の水質汚濁を防止。	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア 整備面積（累積）a	ha	1,653.8	1,653.8	1,653.8	1,653.8	1,653.8
⑤意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 整備面積の拡大	イ 管渠延長（累積）	km					
	ウ 整備面積率(b/a)	%	74.3	74.7	75.3	75.7	76.2
⑥結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 快適で衛生的な生活環境づくりと公共用水域の水質汚濁を防止。	エ						
	オ						
⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア 市民意向調査での下水道の状況の「良い」の割合	%	70.3				
⑨結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 快適で衛生的な生活環境づくりと公共用水域の水質汚濁を防止。	イ 市民意向調査での今後のまちづくりで力を入れてほしい施策（下水道の整備）	%	13.2	8.4	8.5	10.9	10.0
	ウ						
⑩結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 快適で衛生的な生活環境づくりと公共用水域の水質汚濁を防止。	エ						
	オ						
(2) 総事業費の推移							
投 入 量	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
	事業費	国庫支出金 千円	67,731	48,026	63,600	70,556	37,950
	財源内訳	県支払金 千円	0	0	0	0	0
		地方債 千円	105,100	132,000	146,900	152,600	202,800
		その他 千円	4,858	4,644	6,704	12,135	3,687
		一般財源 千円	6,898	6,697	5,890	21,296	17,365
		事業費計（A） 千円	184,587	191,367	223,094	256,587	261,802
	人件費	正規職員従事人數 人	4	4	4	4	4
		延べ業務時間 時間	3,629	4,288	5,821	5,029	5,880
		人件費計（B） 千円	15,206	17,808	24,157	20,966	24,514
		トータルコスト(A)+(B) 千円	199,793	209,175	247,251	277,553	286,316
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等							
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		都市の健全な発達・公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全のため。					
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		住民や議会から、下水道処理区域の拡大、整備促進の要望が多い。また、環境保全についての関心が高まり、下水道の必要性への認識が定着しつつある。整備エリアについては、真岡市生活排水処理構造策定時（平成27年度）及び下水道全体計画策定時（平成29年度）に適切に検討している。 また、管路施設の老朽化対策として、真岡市下水道ストックマネジメント基本計画（平成30年度策定）に基づき、今後、長期的に管路の改築・更新を行っていく。					
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		下水道計画対象区域の住民から、下水道を早く使えることを望む声が多くある。					

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民の快適な生活環境の整備と、公衆衛生の向上が図られる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 都市の健全な発達・公衆衛生の向上及び公共水域の水質保全のため、公共下水道の整備は市町村が行うことが下水道法により定められている。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 真岡市生活排水処理構想策定時(平成27年度)及び下水道全体計画策定時(平成29年度)に適切に検討している。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 下水道全体計画により計画的に整備が図られている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 生活環境の向上及び公共水域の水質保全が図れなくなる。整備未了区域と完了区域との不公平感が広がる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費の削減により管渠や施設の整備が遅れ、普及が遅れる。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 可能な範囲で、調査・設計業務を民間に委託して人件費の削減に努めている。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 汚水処理については、受益者に建設費の一部を受益者負担金として賦課している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか?																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(從来通りで特に改革改善をしない)																								
(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								